

剣道部

慶應義塾体育会剣



村木泉母本舍田
和木玉西原山小特

近藤野戸依
藤村田村木
西村



福沢先生と初代師範を囲む部員。



1926(大正15年) 第2回早慶戦に初優勝。



1931(昭和6年)頃 慰霊祭における記念試合。



1935(昭和10年) 第8回全日本学生剣道選手権大会で学生剣道の王座に輝く、小林大二郎。





1937(昭和12年) 小泉信三塾長を囲む昭13卒剣道部員。

1936(昭和11年) 雌伏10年早稲田に勝つ。



慶應義塾体育会剣道部創立



1875~76頃 学生の有志が集まって、旧紀州藩士田宮某を招き、剣術を学ぶようになった。

1878 この頃三田山上に剣道場ができる。

1892 体育会が創設されると撃剣は体育会の一部となり、警視三級の梅沢清作を指南役とし、部長に浜野定四郎先生を迎え剣術部となる。部員は約 60 名と盛会であった。

1904 綱町運動場に柔剣道場が三田山上より移設される。

1912 体育会雑誌第一巻第一号によれば『剣道部は明治 44 年を以てその大会を重ねること 34 回、我が慶應義塾が学界に於て光栄ある歴史を有するが如く、我が剣道部は学生剣道界に絢爛たる歴史を有するものである』と、一文を寄せている。

●歴代の部長先生

- 1892 浜野定四郎
- 1896 神戸寅次郎
- 1919 阿部秀助

1921 小柴三郎

1952 島田久吉

1962 伊東乾

1969 石川明

以上の部長先生へと受け継がれ、部員はその薫陶にこたえて人間形成に精進している。

●歴代の師範

1982 梅沢清作

1984 根岸信五郎、根岸資信(後年、中山博道)

1911 真貝忠篤(名誉師範)

1916 佐藤義遵、上田潔、橋本統陽

1919 鶴田三雄

1920 藤原又蔵

1923 岸川辰次

1925 北島辰一郎

1931 持田盛二、北島辰二

1937 中野八十二

1972 福本修二

1990 佐藤博信、加藤浩二

以上の諸師範が塾剣道部の輝かしい伝統を支えてご指導くださっている。

1925 第1回早慶対抗剣道優勝大会開催。

1935 第8回全国大学高専剣道優勝大会出場、主将・小林大二郎は早大の大岡禎と決勝戦で対戦し初優勝をとげた。この優勝はその後、塾剣道部の黄金時代を築く一大活性剤となる。

1936 第12回早慶戦開催、10年ぶりの優勝。東京学生剣道連合大会出場、大将・金谷正之、榎本和男、平田参三、堀巨、小林秀太郎の陣容で優勝。

1938 全日本大学高専剣道優勝大会出場、大将・森博、平出太郎、鈴木健のメンバーで優勝。東京学生剣道連合大会出場、大将・広田省二、伊藤吉郎、横田俊、金子国吉、金谷俊介が出演して優勝。

1939 全日本大学高専剣道優勝大会、二年連

周年記念演武会



1949(昭和24年)頃 戦後剣道部OB会(龍光会)の発足記念。

祝 慶應義塾体育会剣道部 創立百周年記念式典



1978(昭和53年) 剣道部創立100周年記念祝賀会。

続優勝。メンバーは大將・鈴木健、平出太郎、若林望であった。

1940 東京帝大主催の高専大会出場、塾予科と同高等部が準決勝で相見え、予科が勝ち進み、岩手医専を決勝で破り優勝。メンバーは大將・金子国吉、持田政治、山田恭二、竹谷小太郎、山辺仁文、北畑広作、中林明、始関正一。

1943 第19回早慶対抗剣道優勝大会開催、綱町道場で戦前最後の試合が行われた。

1945 終戦後、学内の武道が禁止。日本古来の剣道は学校教育から外され、学生剣道は苦難の道を歩む。

1953 学内武道禁止が解除。

1955 早慶両大学の部員、OBと後援の毎日新聞社の努力によって、早慶戦復活。

1961 全日本学生剣道優勝大会出場、国士館大を準決勝で破り中央大と決勝で対戦、初優勝をとげる。(監督・山本恵造)大將・佐々木

正、大島正浩、磯一雄、広田信夫、土井隆司、桑原邦之、瓜生昭悟、野村忠夫の陣容だった。

1967 第15回全日本学生剣道選手権大会出場、近藤重助が初優勝を獲得。第16回関東学生剣道優勝大会出場、東海大を破り優勝。メンバーは大將・近藤重助、塚本邦清、本多昌彦、林真宰彦、菅間哲彦、遠藤仁志郎、中村福義。

1973 第21回全日本学生剣道優勝大会出場、塾は12年ぶりに決勝で法政大を破り、通算2度目の優勝に輝く。(監督・岡田睦夫)メンバーは大將・伊藤隆一、今川裕、町吉幸、山沢幸徳、藤井道民、植田史生、池田逸夫、山沢浩司、谷口玄一郎であった。

1975 第23回全日本学生剣道選手権大会において、町吉幸は近藤重助(1967)に続き学生剣道の王座に輝いた。

宮田正男(1935年卒)、服部武三郎(1927年卒)、杖術の形。

